

「女性の日記から学ぶ会」
平成27年度 活動予定

平成27年4月

活動日 (水)	活動内容		場所	備考
	午前 (10:00~)	午後 (13:00~)		
27年 4/8	定例会議	聞かせて あなたの戦中戦後	講習室	
5/13	定例会議	つどい準備	講習室	
5/27		つどい準備	講習室	
6/3		つどい準備	講習室	
6/12		18:00より つどい準備	5階ホール	夜間の部
6/13 (土)	10周年のつどい		5階ホール	
7/8	定例会議	日記塾「平野仁蔵日記」	講習室	
8/5	定例会議	日記塾「坂本栄子日記」	講習室	第一週
9/9	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成準備	講習室	
10/14	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成準備	講習室	
11/11	研修会 すこし早めの忘年会			
12/9	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成作業	講習室	
28年 1/13	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成作業	講習室	
2/10	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成作業	講習室	
3/9	定例会議	20周年にむけて 目録・記念誌作成作業	講習室	

定例会議は、運営に関わる事項を協議・検討する場で、どなたでもご参加いただけます。なお話し合われた内容は、午後の活動の終了後、参加者に連絡いたします。

六月十三日(土)「十九周年のつどい」の朝です。多くの会員の皆様にお会いできますこと望外の喜びです。当会会員・古川喜代子さんの体験談「日記と歩みつけて」は、「日記ろまん」に十回の連載を終えた「一字日記」など展示もあり楽しみです。続いて「日記熟読集編」は前年度に研究発表され

た「平野仁蔵日記」「鈴木せつ子書簡」「松本幸日記」「飯塚とみ日記」「鈴木千代子日記」の紹介・展示を通して「戦中戦後の日記から庶民の暮らしや生き方」を学び合いたいと思います。来年、二十周年を迎えます。熱い予感に胸が高鳴る一日です。この一年更なるご支援お願い致します。

「十九周年のつどい」を祝う

代表・島 利栄子

日記ろまん

第62号

女性の日記から学ぶ会
代表 島 利栄子

〒276-0046

千葉県八千代市

大和田新田 469-123

TEL・FAX 047-459-9464

事務局

伝言板

★今後の予定

○七月八日(水) 定例会・第七十九回日記塾「平野仁蔵日記を読む」
村松洋一さん。八千代市男女共同参画センター。十三時より

○八月五日(水) 定例会・第八十回日記塾「坂本栄子日記を読む」
中野祐子さん。場所・時間同じ

★会費納入をお願いします

振込先「女性の日記から学ぶ会」島 利栄子
郵便振替口座番号 00110・0351560

入会金：千円 年会費：二千円

★新入会員(順不同・敬称略)

高橋瑠年 江戸川区／小林賀子 八千代市／上山和雄 柏市／永島トモ
八千代市／大岡響子 練馬区(会員数二百三十人)



出版記念会の様子

佐倉市 ユーカリが丘
「ウィッシュトンホテル」に
百二十二人のご参
集を頂き、華やか
な記念会を終える
ことが

★「親なき家の片づけ日記」出版記念
会 賑やかに終わる
三月十八日。桜が開花したこの日



出来ました。心よりお礼申し上げます。
特に日記の会有志による「ちいばつぱりえちや讃歌」は樺と鉢巻に、フ
レィフレーありで、お祝い気分を一
気に盛り上げてくれました。本当に嬉
しかったです！

★「吉田得子日記」その後

「吉田得子日記」の嬉しい後日談が
届きました。得子さんの母校・岡山県
立西大寺高等学校放送文化部生徒さん
達が作成したDVD「時を駆けるラジ
オ・得子さんとともに」が岡山県高等
学校秋季放送コンテスト(オーディオ
ピクチャー部門)で三位に入賞されま
した。先輩の活躍を辿りつつラジオに
焦点を当てて時代の変化を追ったもの
です。丁寧なお礼の言葉とDVDを
送って頂きました。日記が次世代に伝
えるものがあることを改めて知り、感
慨ひとしおです。

連載 2 「女性の日記から学ぶ会」二十年の歩み

未来に続く活動をめざして

《中期Ⅰ（平成十三年～十七年）》

島 利栄子

★移動日記展活発に

全国津々浦々に会の活動を知ってもらいたいと移動日記展に情熱を燃やした時期である。地方の友人らの協力を得て無料の会場をゲット、次々移動日記展を開いた。平成十三年秋は忙しかった。「日記と歩む過去・現在・未来」展を山口県光市、続いて同県防府市、京都市と移動して開催した。初め

て見る会場で手際よく即興の飾り付けをした。展示物の梱包、発送、片付けに苦労した。よくこんな荒技が出来たものだと思える。皆若かった。

翌十四年には長野県塩尻市で「女性の日記 信州展」を成功させ、次いで地元・八千代市市民活動サポートセンター開所式や八千代市市民平和展「戦争を生き抜いた日記展」、四街道市民

平和展「同」で好評を博した。

また「つどい」も毎回、一日だけの展示にもかかわらず「美しい展示」を目指して全力で臨んだ。六周年のつどい「松崎宗子追悼日記展」。七周年「激動の時代を生きた平野仁蔵日記展」。八周年「育児日記の魅力展」は特に印象に残る。三代目事務局長の中野祐子、高崎明子さんらの手作りの飾り物が古い日記に温かい雰囲気を出してくれた。

★シャルレ女性奨励賞受賞する

平成十三年晩秋。何と「シャルレ女性奨励賞」受賞とのニュースが飛び込んだ。全国で活発な活動をする女性団体五百七十四団体の中から選ばれたものの。授賞式は東京会館。事務局の面々が揃って受賞式に参じた。福祉や国際交流活動が多い中で庶民の日記資料の保存活用をするユニークさが受賞の理由だったようだ。代表のスピーチも熱が入っていたが、一同あとのパティ料理に眼を細めた。

★一人芝居「女の力」と朗読劇「黄水仙」に沸く

平成十八年。増野亜士氏が登場して沸いた。若い男性がお婆さんに扮し昔の女のおおらかな生き方を伝える一人芝居「女の力」（原作は島利栄子「周防の女たち 嫁姑のたたかい」は「女が伝える展Ⅰ」のタイトルで日記展も併せて行った。

翌年には「女が伝える展Ⅱ」として増野夫人・さんべいむつこ氏の演出で

「女の力」の増野亜士氏



シャルレ女性奨励賞受賞、代表スピーチ



「松崎宗子日記」をもとにした朗読劇「黄水仙」上演にこぎつけた。この時期、村上テイ氏の腹話術や、塩澤実信氏「歌は思い出を連れてくる」など他分野との連携により大きな活力を頂いた。

★その他いろいろ

ユニークさからマスコミに登場することが多くおかげで会員が増え、日記寄贈に繋がった。NHKテレビ「いつと六けん」「生活ほっとモーニング」NHK「ラジオ深夜便」「ラジオ朝一番」。また、朝日新聞、日経新聞、読売新聞、赤旗、聖教新聞、中国新聞など。また「いきいき」など雑誌にも登場。代表は乞われればこまめに顔を出して宣伝に努めた。（次号に続く）



7周年のつどい「平野仁蔵日記展」その日の平野さん（96歳）



8周年のつどい「育児日記の魅力展」



戦時下の手紙

台北より愛は永遠なれ

MからMへ

長田 松代

平成二十三年三月、皇代表からお薦めいただいた資料、それは会員の鈴木千代子さんから親族が所持の資料で、戦地（台湾）から奥様に宛てたお手紙でした。早速見せて頂くと、全部封書で七十二通ありました。

一通を取り出し、そつと開いて見て驚きました。古くなった便箋は変色をしておりましたが、達筆な字は流れるように便箋をうめつくしていました。そして丁寧な愛情表現をされていて、引きこまれてしまうほどの文面に感動をしてしまいました。

Mさんは大正元年のお生まれで、父と同年代でした。そのことが何より興味を持ったことです。同年代であっても、人はそれぞれ、環境の違いは比較



日記塾風景。（左）長田松代さん・（右）鈴木千代子さん

になるものではありませんが、愛情表現の豊かなこと、小説に出てくるような表現に、驚きと戸惑いすら感じました。軍事郵便の版が押していないものが多くありましたが、結婚前は恋人として、愛情のあふれた文章、昭和十二年に結婚され、三人の男子に恵まれました。ご長男は昭和十三年に誕生しておられます。夫として父として、家庭に厳しく、妹から教育のこと、子供の将来のことまで、丁寧な理根を書き綴られて、どの封書も便箋が七、八枚ありました。筆字も素晴らしい方で、八通が筆字でした。その中の一通をご紹介します。

昭和十四年二月十五日
手紙有難ふ何時も元氣何よりだ、何

時も乍ら留守中に家事全般に對するお前の並々ならぬ苦勞厚く感謝す。慰めん道とて無く手紙のみ許される道。俺も至極元氣にて其の職責を遺憾無く遂行致し居る故安心せよ。お前が円満なる家庭生活を為し得ないことは、丁度俺と同じことだ。銃後たると兵隊たると国家の為に変わりが無い。即ち二人の一身同体なる所以茲にあり。昔の人の教え、上見ればあれ欲し之欲し総て欲し、下見て暮らせ、世の中のこと云うのがあるが、他人の幸福なる生活を見て自分の不幸をなげいてはいけません。将来の幸福こそ現在の後に約束されて居る。お互に其の時をじつと我慢して待つてゐないか！（略）一月撮影の寫眞有難ふとても優秀に撮れて居た。坊やも俺に大分似て呉れた様に考



MさんからMさんへの手紙

へる。シシ鼻の所迄似てる。恐れ入った。お前も前より一段とハンサムになった様な気がする。心を清く持つて呉れて居るからだろう。（略）本日より再び信念の日を送ることを誓ふ。大事な写真を胸に秘めてさらば。御礼の詞迄。元氣で居れよ。（※句読点は筆者が入れる。）

M様

Mより

Mさんに二度の帰国が許されていたことは、どんなに幸せであつただろうと推測をしました。同じ戦時下で何とやらやましいこと、父のことが重なり、苦勞をした母を思わずにはいられませんでした。Mさんは台湾での事業を夢見ておられたようでしたが、戦局が厳しくなり、昭和十九年十一月に三度目の南方行でフィリピン沖にて戦死されました。奥様、ご子息の悲しみはいかばかりであつただろうと、吾がことと重なり、戦争の酷さを思い知らされました。

鈴木千代子さんは「いまM兄さんが元氣でいたら、幸せだったろう」と呟いておられました。素晴らしい方の貴重なお手紙を拝読させていただきました。鈴木さんの優しい支えが大きな力になりました。また会の先輩方々のご指導、ご協力を頂き解説できましたことを深く感謝しております。そして今年には戦後七十年を迎えました。感慨ひとしおです。



Diary

一九三七（昭和十二）年の 平野仁蔵日記を読む

比江島 大和

現在、平野班では、敗戦を挟む戦中戦後の十数年間を中心に平野仁蔵日記を「読み解き」とまとめることを構想中。その一環として、一九三七（昭和十二）年の日記について、第七十三回の「わいわい日記塾」で報告した。今回はその報告をもとに、当年の平野日記の特徴や論点を私なりに紹介したい。

◆印以下の文章は日記からの引用。日付は漢数字で（月／日）と略記。（「」内は引用者の注記。）

当時の平野さんと日記について

一九三七（昭和十二）年当時、平野仁蔵さんは満二十九〜三十歳。独身。化粧品店の行商のため、東京牛込の住居と、栃木県芳賀郡小貝村杉山（現在は市貝町杉山）の実家とを行き来して暮らしている。

当年の日記帳は日本評論社発行の

『昭和十二年新日記（乙）』（定価一円）。購入したのは一月も半ばに入った頃。

◆此の四五年、金に汲々たる生活を続け居れば新春碧頭（ママ）、大枚？を投げ出だして日誌買ふも出来ず、何時も此の時期後れとなりて安値に至る待ちて買ふ有様なり。（二／一六）日記には、日々の「汲々」とした暮らしぶりや、そのなかで三十代青年が抱いた率直な想いが書き綴られている。

「商売」―「文明開化」の「商賣」に跨って
当時の平野さんは、化粧品の行商（本人は「商売」と表現する）をしていた。移動手段は自転車。

◆真岡、久下田、下館と進みく／て、今朝栃木の片隅にありし身は、午を過ぎる僅かにして已に茨城の西南端に位置せり。昔時は、懐へば水盆を汲みて江戸に向ひしとか。恵まれたり文明開化、現代は万人の商具たる自転車をも以てしても尚一日にして東京の繁華に接し得べく、若しそれ自動車、飛行機のスピードを利さば一瞬にして三十、五十里程は往復するを得べし。（三／一七）

だが、その頼もしい「相棒」はともかく、「商売」自体は不景気のために振るわなかったようだ。日記には、その現状や将来に対する複雑な想いが綴られている。苦悩や諦観、希望などが入り混じった想いである。

◆一度実家に戻れば心暢々として何等の苦も悩まなければ、家を一步外

にする時は、己が最も好まざる商売に依りて其日、其日の生活を営まざるべからず。然も其の心的苦悩たるや実に此処に尽し難きものあるなればなり。（中略）何れにしても未だ吾は安住の地と安住の策とを得る能わず。暗黒の中を模索して此の浮き世に生の彷徨を続けるなり。（三／八）
◆若し、自分が確定した職を持つなら這麼「こんな」にまで無駄な時を消さずに済むであらうに。然し不遇の中にあつても、逆境の中にあつても、吾が体内に流るゝ血汐は変りない。必ずや此の一生に於て快心の何事かを成さずには死なぬ積りである。（三／一一）

実家での暮らし

「商売」の不振のためか、下半期になると実家に滞在することになった。平野さんにとって、実家や家族は「楽しみ」や「安らかさ」を与えてくれる存在であった。

◆蒸し暑く騒々しき家なれど、矢張り家には家の楽しみあり、安らかさあり。（七／二四）

平野さんは、そんな実家で農作業を手伝いつつ、機械縄ないも始める。だが、平野さんにとって、実家＝田舎・農村での生活は、必ずしも満足すべきものではなかった。

平野仁蔵さん周辺の主な出来事（月別）

1月	環が骨折（7日）
2月	紀元節（10日）、日記帳購入（16日）
3月	小学校の体格検査（3日）、陸軍記念日（10日）、春季皇霊祭（21日）、義姉が男児を出産（24日）
4月	神武天皇祭（3日）、大岩観音見物（24日）、弟の徴兵検査（26日）、総選挙立候補者演説会（26日）、天長節（29日）、総選挙（30日）
5月	富谷観音を参詣（9日）、薬師寺跡を訪問（10日）
6月	煙草検査（24日）、親戚が死去（30日）
7月	防空演習（10日）、鉄道自殺遺体を見る（21日）、勿来閣を訪問（22日）、動員令下る（28日）
8月	新聞購読開始（1日）、観音様の掃除（14日）、再び動員令下る（15日）→出征見送り（21日）、自転車盗札付換（28日）、軍事講演を聞く（30日）
9月	念仏講の軍事慰問金募集（5日）、徴検査（7日）、妹が女児出産（9日）、動員令下る（10日）、台風（11日）、防空演習（18日）
10月	召集令（12日）
11月	明治節（3日）、祖母が死去（22日）
12月	兄一家が九州に引っ越し（2日）、火事を見物（21日）

◆少年時代は一世を風靡する大成功者たらんとの野望に燃えてゐた此の男、今は一日五六拾銭の縄ないが仕事かと思ふと些か憂鬱になるけれど

◆田舎の生活は単調なり、無味なり、余りに非刺激的なり。所謂かゝる沈滞の雰囲気長く浸り居る時は人間遂に現代の文化に取残されて、日進月歩の社会と歩を共にする事能わず。（四／一二）

「生活の途」を求めて

そんな暮らしのなかで、平野さんは自身の「生活の途」を「開拓進展」させようとする。

◆少年時代は一世を風靡する大成功者たらんとした野望に燃えてゐた此の男、今は一日五六拾銭の縄ないが仕事かと思ふと些か憂鬱になるけれど

共、〔中略〕少年時代の野望、一世に君臨せんとするの野望は未だに消えず衰えず、逆境と共に却って益熾烈ならんとするを見るなり。時来らば我にも亦必ずや花開き、実を成す機も到来すべし。眼前の些細なる出来事に心を惑はす事なく、忠実に生活の途を邁進し、開拓進展すべき事に意を用ふべきなり。(二二／八)

その方向性は、「沈滞的」な農村から脱却し、「日進月歩の社会」のなかで、つまり都会で働くというものであった。

◆わが将来に対する希望
1、若干の準備金を用意したる後
東京地方にて求職

2、地方工業地にて求職

3、家具工養成所塗装部入

4、従前通り商売に従事(八／二二)

こうして平野さんは十月以降、求職活動を始める。十二月には、日立製作所から感觸のいい返事が来る。

◆助川の日立製作所より、来春早々詮衡をなす故、眼病、其他伝染性疾患の有無を確め治療をなし置くやうにとの葉書が来てゐた。〔中略〕今此の通知を得急に心躍るを覚ゆ。然れ共、同時に過去の病気を想起して身体検査を危ふむ。(二二／二二)

過去の肺病を思い出して身体検査に不安を覚えながらも、前向きな通知に「心躍」った。

暮らしのなかの戦争

当年の七月には日中戦争が勃発し

た。この頃の平野さんは実家に滞在することが多かったが、戦争は度重なる動員・召集という形で農村の暮らしに入り込んで来た。

◆昨夜動員令来るとの話に驚きて床を蹴る。前回は本村に僅か六名位なりしが此の度は三十有余名との話なり。〔中略〕何処も彼処も只戦争の話にのみ掩われ居る有様なり。

(八／一五)

◆今宵また召集令が来るとかにて農村も時ならぬ緊張に包まる。夜の八時少し過ぎ頃自動車来りて次いで自転車走り廻る音頻りに聞ゆ。

(二〇／一二)

出征兵士の見送りや新聞記事(新聞は八月から購読)に接するなかで、平野さんは、世間に「戦事気分」が溢れてくる様子を記している。

◆戦局愈々拡りて今や国内は上下を挙げ戦事気分充滿の状態なり。我が身独り寧んぞ安閑たるを得んや。

(八／一七)

平野さん自身も「安閑」としては居られず、その雰囲気呑み込まれていく。軍事講演を聴いたり(八／三〇)、「歩兵第五連隊の雪中行軍遭難始末の書」を読んだり(九／一)、戦局に関するニュース映画や活動を見たりしている(九／一五・二六)。

ただし、平野さんの戦争への関わり方の裏には、個人的なコンプレックスも潜んでいたようだ。

◆上海北支に炎熱を侵して活躍する

我が皇軍を偲ぶ時些か此の身の忤怛たるを覚ゆる。身軍籍になれば戦場に駆馳する勇士たる能わず、財乏しくして銃後の後援も叶わず、支那の暴状に憤懣の胸をたぎらせるのみである。

(八／二〇)

◆昨夜の召集令は小貝村にて合計二十四名とかにて杉山よりは川又道二郎君と平野政二君の二人なりと云ふ話なり。我は兵籍になき身なれば此の軍国調の秋に話も出来ず。

(二〇／二三)

こうした劣等感や自己卑下にも拘らず、あるいはそれゆえか、平野さんは戦争に対して次のような思いを綴る。

◆日支事変も此処の処、新聞面にては一向に捗々しからぬ様子なり。大方推察するに皇軍の苦戦か、然らざれば一先待つ機を姿勢を取り居る事ならん。我の待望するものは画期的皇国の躍進と事変の徹底的結果を他にしてなし。

(二二／一一)

◆日支事変も南京攻略の大詰に來りて我が軍の圧倒的大勝は今や全く確実となり、あれやこれやと、日本のけん制に狂奔せる世界各国も啞然たる事ならん。

然れ共、日支事変は南京攻略後に於て更に第三国との関係より複雑難関に達するものならん

分は思考す。然して戦禍は幾度か拡大して遂には世界の統制へと押し流さるゝものには非ずやと思さる。噫、昭和の聖世に生れたる幸福に神国日本の驚異的世界躍進の姿を我は見る事を得るものなり。

(二二／九)

現状の「皇軍の苦戦」や、今後の「戦禍」の拡大を予想するといふように、ある程度冷静な目で戦争を見つめつつも、戦争による「皇国の躍進」と「事変の徹底的結果」を待望し、「昭和の聖世」に生れた「幸福」を噛みしめている。そして、求職活動で好感觸の通知をもらい、次のように記す。

◆身体の具合に入念なる注意をして只管吉報採用の決定の至るを待つてゐる次第。南京陥落も目睫に迫れる今、自分は只幸福の一步手前にあるやうな予感がする。(二二／一四)

現在の境遇に悩み、そこから抜け出そうと必死にもがく青年が、自らの「幸福」な前途と重ね合せて「皇軍」の戦勝を書き記す。日々の暮らしのなかで民衆がどのように戦争に向き合っていたか、その一端が垣間見えよう。

十二月十四日の日記(抄)



一九四八年の

「平野仁蔵日記」

を読む

吉見 義明

一九四五年の「平野仁蔵日記」は、村松洋一さんにより、本誌第五九号と第六〇号に紹介されている。ここでは、一九四八(昭和二三)年の日記を紹介したい(二〇一四年四月九日の第七四回日記塾での報告概要)。

平野さんは一九〇七(明治四〇)年四月三日栃木県芳賀郡小貫村生まれであり、一九四八年三月には満四一歳になった。一九四五年一月から石川島重工業に勤務しており(第二工場工員)、杉並区馬橋のアパート、一鳴社から通勤していた。まだ独身で、結婚は一九五二年になる。

I. 平和をかみしめる

一九四八年の日記はつぎの記述からはじまる。

「何年か振りで父母と共に迎へる正月である。田舎は旧の正月が本当だ

が、それでも元日丈は餅を搗き雑煮位作る。兎の肉入りの上味い雑煮に古鼓を打ち、カン／＼火のある炉辺に茶を飲みつゝ父母と共に団らんする。戦争も納り、食糧事情も年々好転、吾等が身辺には戦争による犠牲者もなく、未復員者の気掛り者もなく、誠に恵まれたる境遇にあるものと云ふ事が出来る。……煙草と共に半日を暮し、夜は疲れて、湯に浸るや早目に就寝。四十二才の春、第一日はかくも平和に、和やかに、亦希望を以て迎へる事が出来たのだ。独身者の正月も亦あながち見棄てたるものには非ずと思ふ」(一月一日)。

戦争終結から二年半がたち、食料事情も好転し、独身者の正月を故郷で父母と共に迎えた。平和のありがたさをかみしめているのだ。

II. 日常生活

正月休みが終わると、出勤がはじまる。「硝子戸に当る風の音が強く、お天気は好いに違ひないが、何とも寒い様な気配だ。外に出ると、空は未だ幾つかの星が残る、皎々と月が中天に掛つてゐた。案の条、寒い風が吹いてゐる。思はず外套の襟を立てて駅へ急いだ。電車、バスと経て七時二十五分会社に入門(一月二七日)とあるように、とても早いのだ。一八日には「五時半起床。冷たい飯を、温めた汁でかき込み、時計を気にしつつ、会社に急ぐ。毎日の日課の一つである」とも記され

ている。

食事は、朝夕自炊で、台所・トイレは共同のようだ。帰宅すると、「貰ひ水をして夕飯を造り、七時半頃独りはんごうの飯を食ふ。甘藷を食ひ、豆を食ひ、牛蒡を煮たのを頬張り、更に葡萄糖の残りを平けて、食卓上に並んだ食物は全く顔をひそむるに至る」。その後、「疲れと眠気に襲はれ、九時半床に入りて日記を書き小使帳を記入、新聞をよみ、最後に煙草を吸ふてスタンドのスイッチをひねる(二月四日)。こうして一日が終わる。このような日常に、我が人生が「身を結び」を見るは果して期し得らる事であるか」と平野さんは内省している(九月二十四日)。

III. 娯楽

平野さんの趣味のひとつは、本を読み、字を書くことだ。休日の二月一日には「深更、人皆寝静まり来りたる様子、己れの部屋の電燈煌々と明るく、かゝる時、物と思ひ、物を書き、書を繙く、誠に我が此の上なき楽しみなれど、如何せん、明朝の早き出勤に支障を来さん事をおそる。儘ならぬかな」と記されている。

野球見物や映画をみることも楽しんでいた。五月一日には軟式野球を見物し、二五日にはムービー銀座で「大曾根家の朝」を見て、「仲々好い映画であった一記している。六月五日には後楽園球場で、金鯱対太陽、阪神対阪

急を見物し、「生れて始めて見るプロ試合に全く総てを忘れる陶酔の態だ。時々ばかり精神を純一無垢の境に遊ばす事も大に意義ある事であらう。されば六十円の入場料は安いものだ」と記している。

八月一日には多摩川に行つて泳ぎ、その後両国の川開きを見ている。一月三日には、神田の古書店街と雑貨店街を一日歩いている。変つたところでは、六月二七日に浅草松屋で「性の科学展」と映画「肉体と悪魔」を見ている。

IV. インフレに驚く

日記には、物価の高騰に驚く記述が続いている。

「午後二時少し前頃アパートを出て、三越に行き、日記を買ひ、ポマード買ひして、更に神田駅前でライターを求めて帰宅す。一寸品物を買ふと二百、参百円の金は直ぐに消えて終ふ」(二月六日)

「夕刻は新宿迄買物に行つて来た。一寸品物を買ふと百、二百円札は瞬間に飛んで終ふ。千八百円ベースなど今更小面悪くなる思ひだ」(二月八日)「帰宅して七月分の支出を合計して見た所、ナント五千円を超しているではないか。自分乍ら驚いた次第だ。金はいくら有つても思ふ様に残らぬもの、生活とは実に六ヶ敷いものだ」(七月三日)

こんな具合だ。所得税や非戦災者税

平野さんは、体重四十六キロ、身長一五三・五センチ、胸囲七五センチと小柄だったが、ご飯は相当食べた。六月二日には、「帰り途、神田の「食安」で、ホットケの開きを五十円許り求めて

二九日からは淡島丸にとりかかる

「大節丸の準備運転。八時半にドツクを出て遠く横浜近く迄行く。我々の汗の結晶が今始めて試みらるゝ試運転

しい給料日である。質上要求姦結後の第一回目、給料は兎角、心待ちの甚だしきものである。然し、会社の都合で、税込み四千貳百五十拾円の中、質上の部丈は来月三日に支払ふ事になり、今日は矢張り何時も同じ丈の勘定であつた。手取り、金貳千貳百貳拾九円を懐中にして帰る。……部屋代貳百円を払ひ、書物二冊、魚十五円の買物、煙草の金や何かで未だ懐中には三千円許りの金が残つて居る訳だ」(二月二八日) いささか余裕が出るようになったやうだ。

この労働運動や政治問題に対する平野さんの態度・立場は労働者の意識を
探る上で興味深いが、紙数が尽きてし
まった。他日を期したい。

連載 3

私の読んだ 平野仁蔵日記

田中 順子

昭和三十年

四十八歳(上)・父親になる

◇智子ちゃんの誕生

四十八歳の平野さんには造船の仕事はかなりハードなものだった。九月十日には「毎日此の混乱の中で働き続けるのかと思うと厭になつてくる」と記している。

しかし結婚二年目、昨年一月二十九日誕生した長女智子ちゃんの成長を見守り生活に張りがでて、その記述は父親となった喜びにあふれている。

四月十六日には「帰りのポケットにはキャラメルが入っている、そんな身となった」と記している。

今号は当時としては晩婚で四十七歳で父親になった平野さんの子煩悩振りをお伝えしたい。

◇家庭生活からの抜き書き



一月三日
子供の育ちゆく
を見ると全く自分
の苦勞など忘れて
しまふ。

一月二十九日

智子ちゃん一歳のイメー
ジ画(田中順子さん)
日。今や人の口真

似も結構でき、丸々と太り昼間は粥のみ夜はミルク。一年はまったく早い。

二月六日

何んとも日曜日は楽しい。

我々勤労者は「八時間労働」という基準を有しながら毎日の残業、平均二回位の日曜出勤もありこれも収入になるので如何ともしがたい境遇だ。

三月十二日

智子、三、四歩くようになつた。

確りと立つてヨチヨチ歩く。

四月十六日

帰りのポケットには智子へのキャラメルが入っている。

吾は今となって帰りに子供のお土産を懷中にして喜ぶ身となった。

五月十二日

縫い直したセルを着て寛ぐ。何年振りかの心地する。

五月二十八日

給料日。会社に向ふ足取りも何時もと違って活気がでる。時間外五十三時間半。総額二万三千九百円。

五月三十日

白井・ペレスのリターンマッチ。

智子を抱いて大急ぎでラヂオ店にテレビを見に行った処、丁度五回目だった。ペレスのKO勝ち。

七月二十六日

智子身中湿疹。慶応病院へ。

町医者は駄目だ。

八月四日

購買でラヂオ(ナショナル六球スパ)一四、八〇〇円月賦で購入。やつと世間並となった。

八月二十一日

智子の育児日記。目 親ノ写真ヲ判別ス。口 父チャン・母チャン・オジチャン・オバチャン・アンチャン・オネーチャン・他人のマネハタイテイスル。動作ハトポツポ・カイグリ・ムスンデナド。

足 トコトコカケ足テ走ル。

十月二十六日

給料日。残業八十二、五時間。高島屋に寄り智子の人形を買つて帰る。

十一月一日

家に帰つて夕食を済すと何時もの如く智子相手に大騒ぎして、それからラヂオを聞く。

考えてみればこれが即ち最上の人間の生き方なのだろう。「健康」と云ふものを失しわれない限りに於て。

十二月十日

年越資金で。今日は仕事は上の空。心は専ら越年資金のみに走る。三時半終業。四時に金を貰つて計算書を見ると案外おかつた。

平野日記を読んで「日記の効用」を強く感ずる。仕事場での出来事や我が子の成長振りを書き付け一日を振り返り、家族に当ることなく、会社でも淡々と働いていたよすがが伺える。

「自分一流の消極的心境、陰気に結論づけようとする。」(二十七年五月八日付)と分析しているが、独身生活が長かった平野さんは四十五歳で結婚、四十七歳で父親となつてからの記述は人間味たっぷりであり素直で楽しい。給料日には妻子へ、お土産を忘れない。

私がお会いしたのは九十代のはじめ百歳ちかくの晩年で、「古文書」に明るく、皆の質問に気軽に答えてくれた。平成十九年の「つどい」で百歳のお祝いをすることができた。

その時「百歳にもなると頭がごちゃごちゃですが今日の日は死んでも忘れません」とユーモアたっぷりの返答に大爆笑、大拍手となつたことを思い出す。代表はじめ会員の皆が、平野さんを尊敬し大切にしていた。(終)

昭和三十年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65
66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91
92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104
105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117
118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156
157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182
183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195
196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208
209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221
222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234
235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247
248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260
261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273
274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286
287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299
300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312
313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325
326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338
339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351
352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364
365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377
378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390
391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403
404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416
417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429
430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442
443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455
456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468
469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481
482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494
495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507
508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520
521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533
534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546
547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559
560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572
573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585
586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598
599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611
612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624
625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637
638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650
651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663
664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676
677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689
690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702
703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715
716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728
729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741
742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754
755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767
768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780
781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793
794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806
807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819
820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832
833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845
846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858
859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871
872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884
885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897
898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910
911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923
924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936
937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949
950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962
963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975
976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988
989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001
1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014
1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027
1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040
1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053
1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066
1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079
1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092
1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105
1106	1107	1108	1109	1110								